

説明文の要旨をえらぼう

小5／文章を読んで、筆者がいちばん伝えたいこと（要旨）を1つえらびましょう

なまえ

ひづけ

1 外来種の問題を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

もともとその土地にいなかった生き物が、人の手で持ちこまれて野生化することがある。これを外来種という。外来種は、もともからいた生き物のえさや住みかをうばい、その地域の自然のつり合いをくずしてしまうことがある。身近な自然を守るには、生き物を勝手に放さないことが大切だ。

1 外来種は自然のつり合いをくずすことがある。

2 外来種はどんな場所でも役に立つ。

3 外来種はもともからいた生き物を助ける。

4 生き物はどこに放してもよい。

2 リサイクルの意味を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

使い終わったびんやかん、ペットボトルは、ごみとして捨てればそれで終わりだ。しかし、分けて出せば、とかしたりくんだりして新しい製品に生まれ変わる。限りある資源をくり返し使うリサイクルは、ごみをへらし、地球の資源を守ることにつながっている。

1 ごみは分けても生まれ変わらない。

2 リサイクルはごみをへらし資源を守ることにつながる。

3 資源はいくらでもあるので守る必要はない。

4 ペットボトルは一度しか使えない。

3 記録することの意味を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

見たことや考えたことは、時間がたつと少しずつわすれてしまう。しかし、書きとめておけば、後から読み返して思い出したり、人に伝えたりすることができる。記録することは、経験や考えを未来へ残すための、人の大切な知恵なのである。

1 記録しても後で役に立たない。

2 見たことは時間がたっても決してわすれない。

3 記録は経験や考えを未来へ残す大切な知恵である。

4 記録は人に伝えるのにじゃまになる。

4 助け合うまちを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

地震や大雨などの災害が起きたとき、公的な助けがすぐに届かないことがある。そんなとき、近所の人どうしが声をかけ合い、たすけ合うことが多くの命を守ってきた。ふだんからのあいさつやつながりが、いざというときの大きな力になるのである。

1 災害のときは近所のつながりは役に立たない。

2 公的な助けはいつもすぐに届く。

3 あいさつやつながりは災害と関係がない。

4 ふだんの近所のつながりがいざというときの力になる。

🔍 いちごドリル プリント